

平成26年度 第5回 府中市保健計画推進等協議会会議録

日 時：平成27年1月29日（木）

午前10時～11時30分

場 所：府中市保健センター分館元気ホール

- 出席者 委員：小林 哲也（医療・府中市医師会）
杉田 廣己（医療・府中市歯科医師会）
田中 勝彦（企業職域・むさし府中商工会議所、（有）柏屋取締役社長）
播磨 あかね（行政・東京都多摩府中保健所保健対策課長）
藤原 佳典（学識経験者・地方独立行政法人 東京都健康長寿医療
センター研究所）
古山 一子（公募委員・市民）
安井 忠昭（公募委員・市民）

事務局：福田健康づくり担当副主幹兼母子保健係長

福嶋成人保健係長（健康推進課）

神田保健師（成人保健係）

奥保健師（成人保健係）

岩崎保健師（成人保健係）

加藤栄養士（成人保健係）

渡邊歯科衛生士（成人保健係）

コンサルタント：株式会社名豊 池上氏

※協議会設置要綱第6条の2項により委員9名中7名が出席しているため、本協議会は有効とされました。

■進行：福田健康づくり担当副主幹（事務局）

- ・開会宣言
- ・配布資料の確認 ※配布資料は別添参照

■これより議事進行は会長となる。※傍聴希望者なし。

【会長】次第のとおり進めていく。

1 報告事項

(1) 福祉計画（最終案）について

【事務局】府中市福祉計画は、本計画と同様の進行状況で策定中。現在、最終案の取りまとめを進めており、3月議会です承された後、印刷物として市民に配布する予定。

【委員】質問、ご意見がないので了承とする。

2 審議事項

(1) 第2次健康ふちゅう21（最終案）について

【事務局】第2次健康ふちゅう21（案）[資料1](#)は、最終案である。前回の協議会及び協議会後にいただいたご意見を反映し、文言修正を加えた内容となっている。

主な修正箇所を説明する。

（5ページ）第2次健康ふちゅう21で取り組む『ソーシャルキャピタルの醸成』による健康づくりを分かりやすく表現するために、「市民相互のつながり」や「支えあい」による健康づくり、安全安心を広げる「健康づくりの切り札」などの表現を追加した。また、『ソーシャルキャピタルの醸成』による効果は、特定の人を周囲が見守るということではなく、「お互いに」効果があるものであるという表現を追加した。

第2次健康ふちゅう21が目指す健康づくり（4コマ目）に、「まちぐるみ、地域ぐるみの健康づくりや安全・安心への意識が個人の健康や安全・安心につながります」という文章を追加した。

（6ページ）第2次健康ふちゅう21と福祉計画との関係性を整理するために図を修正した。

（46、47ページ）計画の基本目標は「自らの健康は自らがづくり、守るまち府中」であるが、個人の健康は個人の取組だけでなく、周囲や地域の影響を受けやすいこと、また、個人の取組とソーシャルキャピタルの醸成の両面が必要であることから、2段落目の先頭に「個人の健康は、周囲や地域の影響を受けやすいとされています」という1文を追加した。また、基本方針4「ソーシャルキャピタルを醸成する」の項で、「まちぐるみ、地域ぐるみの健康づくりや安全・安心が広がることから」の後に「個人の努力に加えて」という文章を追加し表現の調整を行った。

これを本計画の最終案とし、提案する。本最終案については、大きな修正は行わず、文言程度の修正を考えており、修正の可否については事務局に一任していただきたい。

今後、本最終案は、議会承認を経て、正式な計画として策定していく。

【委員】意見はあるか。

【委員】（1ページ）「第1章 計画策定の概要」の、疾病予防や介護のための社会的負担を減らすことが求められています、という部分で「社会的負担」という表現が個人的にはストレートすぎるように思う。社会的負担軽減の様々な施策が求められています、というような表現はどうか。

【委員】最終的には、社会保障の軽減ということであるが、どうオブラートに包むかということだと思う。東京都等の表現はどうなっているか。

【事務局】都は、この様な表現になっていたと思うが、再度検討していく。

【委員】ますます医療費や介護の負担の増加が見込まれているのが社会保障の部分で、疾病予防や介護のための社会的負担の社会的というのは単にお金のことだけでなく、人や家族の負担等すべて含めてということだと思うが、事務局に、もう一言表現をご一考いただくということによいか。

(2) 第2次健康ふちゅう21実践編(最終案)について(資料2)

【事務局】前回の協議会の意見を反映し修正した。修正内容5点についてご説明する。

- ① 第2次健康ふちゅう21の重要な取組以外に、各種チェックリストや健康情報を記載し、生活改善の実践につながる内容になっているため、タイトルを概要版から実践編に変更した。
- ② 表紙のタイトル、見出しのほかに第2次健康ふちゅうで目指す健康づくりの内容について説明文を追加した。
- ③ (1ページ)本計画の重要な取組である「地域のつながりを強化する」に関する記載を移動した。
- ④ (4ページ下部)メタボリックシンドロームを追加し、「メタボリックシンドロームとロコモティブシンドロームについて+10(プラステン)で予防しましょう」という表現に変更した。
- ⑤ (11ページ)健康づくりの実践を促す市の健康増進事業について、紹介するページを新たに追加した。

なお、本実践編は2月末まで修正可能であるため、他に意見がある場合は事務局まで連絡いただきたい。

【委員】実践編に関して質問はあるか。

【委員】(4ページ)「3 健康寿命を延ばそう」の※65歳の人がということは、65歳以上の誤りではないか。

【事務局】検討し対応する。

(3) 平成27年度「健康に関する市民アンケート」について(資料3)

1 平成27年度「健康」に関する市民アンケートの概要

第2次健康ふちゅう21の評価指標と現状の把握を目的とし、18歳以上の府中市民3000人を2段抽出法、無作為抽出し、郵送にて送付・回収を行う。実施時期は下半期を予定しているが、今後の取組状況によって変動することもある。対象や調査人数等についてご意見をいただきたい。

2 アンケート設問項目について

資料は過去4回で実施した項目と東京都や総合計画等の指標である。※1は「平成25年都民の健康や地域とのつながりに関する意識・活動状況調査」、「東京都健康推進プラン21」、「いい歯東京」を参考にしている。※2は、第2次健康ふちゅう21「市民が取り組むこと」より項目を抜粋した。※3総合計画では、「第6次総合計画」、「第6次総合計画前期基本計画の重点プロジェクト」を参考とした。

(2) アンケート設問項目は、表のとおりである。地区活動については「平成25年都民の健康や地域とのつながりに関する意識・活動状況調査」を参考に違う世代との交流や地域の人との助け合いについて項目をあげている。この地区活動の項目は、第2次健康ふちゅう21が目指す、ソーシャルキャピタルの醸成による健康づくりを評価できるように、質問項目を充実させたいと考えているため、重点的にご意見をいただきたい。

3 第2次健康ふちゅう21の新たな指標

健康危機管理の項目が第1次健康ふちゅう21から新たに加わった。必要な備えの有無や避難所の認知度等を考えている。設問の聞き方によって、項目数の増減があると考えている。このほか、必要な視点があれば、ご意見をいただきたい。

【委員】今回3000人の規模で実施するようだが、毎回の回収率3割だと、1000人位しか戻ってこないと考える。また戻してくれる人は、健康に前向きな人であるのでバイアスがかかった結果になると思う。3000人規模だと、地域を比較するとか、世代の比較（特に若い世代の比較）は難しい。中途半端にやっても、結果が解釈できなかったり、ほとんど差がつかなかったりすることもあるので、出来るだけ配布数を増やすように、事業の規模等を工夫したほうが良いのではないか。もう一点、前回も無作為で抽出しているが、もし有志でご協力いただける方がいればID番号で管理し、2年後、3年後、個人の中で変化があるのか等を見る欄ももうけて、追跡も可能な2段仕立ての調査にすることも検討してはどうか。いろいろな地区で調査を行っているが、情報量が全然違ってくる。調査の項目等細かい所は、今後何度も熟慮しなければならないと思うが、調査の枠組みや方法に関しては、個人情報審議会の問題等もあると思うので早めから方向性を決めていかれたら良いと思う。

【事務局】人口規模から考えて適切な配布数はどのくらいか。

【委員】1000回収したとしてたとえば年代別で5つくらいに分けると各年代200位の回収になると思う。200だと評価としては少ない。出来れば10000位は良かった方が良く思う。回収率3割ということを考えても、配布は多い方が良く思う。

(4) 「第2次健康ふちゅう21」構成事業評価の概要について 資料4-1

健康ふちゅう21の進捗状況を把握し推進していくために、第1次計画期間中は事業実施計画を策定し、事業主管課において毎年度評価してきた。第2次計画においても同様の目的で策定するが、評価のポイントや対象事業については全面的に見直す方向で検

討している。

1 趣旨

第2次健康ふちゅう21構成事業評価の趣旨は、定期的かつ継続的に活動実績を把握し、実績を踏まえて評価を行い、次年度の計画や実施に反映するために行う。

2 体系

資料1 計画書48・49ページの体系図に基づき、ピラミッド型の事業体系を示している。実際に評価するのは「第2次健康ふちゅう21構成事業」として想定し、具体的な事業名は、資料4-2「構成事業一覧表」(案)のとおり。表内3段目「事務事業」に掲げた事業が評価対象事業で、その下の主管課名が各事業の主管課を示している。そのほかに対象事業があるかどうかについては、今後庁内全体に照会し、洗い出しを行う予定である。

3 評価の実施 (資料4-3 第2次評価シート(案) (記入例))

「1、事業の概要」では、各事業の概要や背景、課題等の基本情報、事業実績を入力し、評価する。前年度及び今年度事業計画欄は、評価年度に合わせて対象年度を指定する。「2、主な事業の目的」は、各事業の目的が、当課の想定する元気いっぱいサポート事業のどの要素にあてはまるかを確認し、関連事業全体にどの程度元気いっぱいサポート事業が含まれるかを確認するものである。(案) あ～えを想定しているが、複数該当することが想定されるため、その場合は一番大きい要素に二重丸をつけ、全事業の評価とりまとめとして掲載する場合は二重丸の要素を表記する予定。4つの要素全てに丸がつくことが健康づくりとソーシャルキャピタルの醸成の点において求められると思われるが、本計画を構成する事業全てが該当するものではないことから、今後該当数を増やしていくように努めていく。また、「2、主な事業目的」の前に、本計画で説明する「ソーシャルキャピタルの醸成」に関する意識付けのために、説明文を掲載することを考えている。内容については今後精査していく。「3、事業の評価」は、平成27年度開始早々の時期に現状値と、今後5年間を見据えて目標値を設定していく。平成28年度以降は、前年度の評価及び予算に基づく具体的取組を記入し、次期計画策定の平成32年度に行う前年度評価を最終評価としてとりまとめを進めていく予定。「4、今後の取組」は、今後の課題や展開の方向性を記入する。毎年度、4、5月頃に各事業主管課による評価が行われることで、夏以降の予算編成時に次年度の事業展開の参考資料として活用されることを目指している。最後の欄に、地域ぐるみでの取組にするために必要な要素や考え方について記入する。この評価実施は、事業主管課及び健康推進課が事業を振り返り、課題抽出と見直し、他事業との連携の模索のために行うものである。本評価内では予算に関する評価はしない予定である。来年度の実施に向けさらに見直しを進めていきたい。本協議会では、「主な事業の目的」の設問内容や文言、また全体的な評価の流れについて、ご意見いただきたい。

【委員】第1次の時は、この様な評価は行っていたのか。

【事務局】形態は違うが、主管課により各事業の評価は行っていた。しかし、計画の目的である、元気いっぱいサポート事業の要素がどのくらいあるか、というような目的に対する評価ではなかったのを見直している。

【委員】ほかに意見はあるか。その他、全体を通して、意見はあるか。

【委員】前回の協議会で、概要版の名称のことを出したが、今回「実践編」に変更してとてもしっくりきている。また、事業評価は、なかなかできることではないので、是非実施していただきたい。素晴らしいと思う。修正点の修正等、事務局の対応が早いので、このような評価も実施していけば、もっと素晴らしいものになると思う。

【委員】その他感想などあれば。

【委員】今回ソーシャルキャピタルという言葉が出てきたが、まさに、行政と住民の協力的体制の中で地域のことを考えていこうということなので、この言葉を大切にしながら、意味を考えながら実践していくということが大切だと思った。

【委員】「メタボ」、「ロコモ」や、最近高齢者の方で使いだした「フレール」（虚弱）のように、カタカナ言葉は、新鮮味があり浸透しやすい。また、今までのイメージに引きずられない中立的な言葉だといわれている。うまく使っていくというのもこれからの地域の施策に必要だと思う。

今回、保健部門や福祉の計画の中でもソーシャルキャピタルという言葉が強調していると思うが、出来れば、役所の中で（防災や街づくりなどの他の課など）でも、この言葉をちりばめ、PR することができれば、より市民の目に留まることができると思う。

【委員】計画の中で、BMI の説明が4か所くらい出てくるが、計算の仕方が2種類出ている。出来れば統一した方が良いと思う。

【事務局】すべて統一する。

【委員】健康寿命の定義についても一度説明していただきたい。

【事務局】本計画の中で使っている健康寿命は、東京都保健所長方式という計算式に基づいて出した数字を使用している。一般的に言われている健康寿命の算定法とは違い、65歳以上を対象にしている。

【委員】65歳以上全員が対象ということか。

【事務局】そうです。厚労省が出している一般的な健康寿命の数字では各自治体レベルの数字がでない。府中市の数字を比較するためにこの方式を採用した。

【委員】BMI 22の表記について、BMI の後にスペースを入れたほうが良いのでは。

【事務局】検討する。

【委員】資料2実践編5ページのお口の健康体操について、イラストはこのままいくのか。何か工夫をするのか。

【事務局】府中市がこの10年来「お口の健康体操」を広めるために採用しているイラスト

トである。このページを全く別のものにかえるのか、修正して使用していくのか等は、今後検討していく予定である。

【委員】苦勞してできた経緯があるのでそこはご理解いただきたい。

【委員】中身自体は全く問題ない。見せ方の問題。

【委員】広報課に聞いてみてはどうか。ただ、これに慣れ親しんでいるということもあるが。

【委員】見せ方だけなので、検討してください。ほかになければ次に。

3 その他

平成27年度府中市保健計画推進等協議会について（資料5）

(1) 開催回数、内容について

【事務局】平成27年度の協議会は3回を予定している。4月から5月にかけて、第2次健康ふちゅう21構成事業評価シートを活用し、事業計画を集約する。第1回目の協議会は、6月に実施し、事業計画の概要を報告したいと考えている。併せて、元気いっぱいサポート事業の活動や、市民アンケートの内容について、ご意見をいただきたい。第2回協議会は10月に実施し、元気いっぱいサポート事業や市民アンケートについて報告する。第3回協議会は2月に実施し、市民アンケートの実施結果や、サポーター満足度アンケートの結果報告、平成27年度活動報告をさせていただき予定。また、平成28年度協議会実施について、審議していただきたいと考えている。

元気いっぱいサポート事業については、集約した構成事業計画を基に、関係部署と連動できる事業があるか、調査や情報交換を行い、元気いっぱいサポート事業の推進について検討を進めていく。6月には新規に行う、市の保健事業に関するモニターの募集を開始する予定。元気いっぱいサポーターやがん検診受診者などから募集をしたいと考えているが、6月の協議会でご意見をいただければと思っている。このほか、11月にサポーター満足度アンケート調査、3月に元気いっぱいサポーターの活動の機会を設ける予定である。内容は、満足度アンケートでの意見を参考に、活動発表などサポーター同士が触れ合える機会を提供したいと考えている。また、年間を通して、元気いっぱいサポーターと信頼関係を築くなかで、サポートリーダーとなる人材の発掘に努めていきたい。

(2) 平成27年度協議会委員構成について

委員人数は6名とし、学識経験者を1名、医療分野を2名、行政分野から1名、企業・職域分野から1名、公募委員を1名で構成したいと考えている。公募委員は、4月の広報ふちゅうで募集する予定。

【委員】このことに何か意見はあるか。

【委員】第2次健康ふちゅう21の目玉が「地域」、「街ぐるみ」だと思うが、そこを考えた時に重要な課題は学校との連携だと思う。教育も絡めてやっていければ、20年後、

30年後の人材育成につながる。是非、教育も意識して取り組んでほしい。

【事務局】 現在も命などをテーマに学校と連携する事業は行っているが、今後も、「保健」を切り口に、さらに連携していければと思う。

【委員】 非常に大事な視点だと思う。ソーシャルキャピタルというのはもともと学校とか教育の場で言われていた言葉である。地域の方が学校等に入っていくと自然と信頼関係がでてくることがある。元気いっぱいサポート事業でも、学校と繋がれると、保護者などの多世代の方や色々なバックグラウンドの方と結びつくと思うので、これからは、学校との連携を探していくのも大事だと思う。先生にとってメリットがある交流をめざすことが重要である。そこがソーシャルキャピタルの「お互い様」ということになる。特に医師会、歯科医師会の先生方は学校と密接な関係があり、年に数回、啓発されていると思うが、その後、地域のボランティア等が継続して進めることができるものがあると、学校と先生方がうまく連携し、それを住民がバックアップするという形ができると思う。

【委員】 防災の部門では少しずつ進めていると思う。校長を巻き込んで進めていければいいのでは。

【委員】 コーディネートが大変なので、教員に直接負担がかからないように、進めていけるものがあれば良いと思う。

【委員】 青少年対策課で行っている事業は、ほとんどがボランティアで進んでいる。そのようなところを参考にしてもいいのでは。

【事務局】 市長も、市民との協働を推進することを掲げており、市民協働推進本部ができている。その中で市民協働の事業に関する調査が行われ、各課に市民協働を推進する職員の位置づけが検討されている。全庁的にその流れになっているので、健康推進課もその一つとして保健分野を切り口とした事業を展開していくことになる。今後は、他の課の様々な事業との連携もやりやすくなると期待されるため、ご指摘いただいた点に関しては進めていけたらと考えている。

【委員】 ソーシャルキャピタルをメインテーマに置いた場合、地域づくりを単なる健康づくりだけの枠の中でネットワークを広げていくのか、学校や商店街等、街全体にまで広げていくのかが、これからの一番大きな課題だと思う。従来の保健部局中心の地域づくりは、保健分野と福祉が少しつながる位が限界であったが、それを超えて、教育も産業界も地域振興も、すべて巻き込んでお互いがメリットをどこに見出すかというところがソーシャルキャピタルの大きな次の枠組みだと思う。色々な自治体でソーシャルキャピタルという言葉だけ掲げて、実際は従来の保健分野が中心の形だけになってしまっているところが多い中、府中市は、市長が市民協働や他との連携を考えているということは追い風だと思う。本協議会で決まったことを、他の分野にも広げ連携を図り、お互いのメリットを引き出せるように、ここ1、2年かけて実践例を作っていただければと思う。

【委員】市民協働の専門本部ができたということですので、府中ならではの施策ができることを期待する。

【委員】三鷹市が地域のつながりの取組として、市民の会合を地区ごとに定期的に行っており、そこに行政も参加していた。様々な分野の方が知恵を出し合っており印象的であった。

【委員】三鷹市は、保健福祉だけでなく、学校と地域の連携もモデル的に進んでいるところである。ソーシャルキャピタルの取組は、職員が一から全てやるのではなく、既存のボランティアやNPO等と役所や住民をいかに連携させていくかがポイントであるため、もう一度地域の資源になるようなソースを洗い出しながら、様々な分野で活動されている方と連携していくのが効率的で現実的であると思う。

以上で審議を終了する。

【事務局】ありがとうございました。実際は、平成27年度からが、大変重要であると考えられるため、今後の活動の展開に関するヒントをいただき、大変ありがたいと感じている。

【事務局】（公務により欠席のため代読）

本協議会は、今回を持ち終了となる。平成27年度からは第2次「健康増進計画」として健康推進課が軸となり、より具体的に進めていけるよう取り組んでいく。本計画に関しては、市議会でも、健康長寿の重要性とともに、市民といかに一体的に取り組めるか等、地域の位置づけとしても注目されている。本計画の目指すところを、市民や地域とのつながりの中で、他部門との連携を推進し、職員一同、実現に向け前進できるよう努力していく。今後ご指導いただきたく、よろしく願います。

【事務局】今後は、計画、実践編、調査報告書が4月に完了する。一読いただきたい。平成27年度協議会は改めて委員の公募を行い、開催に向け準備を進めていきたい。

これにより、本日の協議会は終了とする。

（ 閉会 ）